



たか1組 年長



「リレーする人集まって」「赤チーム足りないんだけどやってくれない?」。汗で頭がびしょびしょの子ども達の声が響きます。園庭に目を向けると赤チーム・白チームに分かれて人数調整している人らしき姿が……。近づいていくと「赤チームが一人多いから、誰か休んで」。そう来たかと思ったのは担任。「えーやだ!」(そうだよね)、「じゃあどうする?」「誰かよんでくる?」……。今迄黙っていた子が「白チームの人、2回走ってよ」「誰か走る人?」「はい」「はい」。一人で足りるのですが、走りたい人は何人もいて、調整に時間がかかります。それでも待っている赤チーム。「走りたい」「競争したい」「一緒にやりたい」という気持ちをガンガン感じました。その他にも、ドロケイ、逃走中、チャンバラ、ドンジャンけん等も好きで、相手の出方を見てのかけ引き……。即ちスピード感やスリル、そしてドキドキハラハラのサスペンスを面白がっている様子が見られます。



一方では、うさぎを空箱や色々な材料で作り、日常生活を再現したり、人間では出来ない空想の世界を仲間と共に作り遊んだりする姿もあります。手のひらに収まる位のサイズで少し硬い容器に綿を貼り付けると、柔らかいふわふわした感じになり、とても気に入ったのか、うさぎを連れて園庭に遊びに行っていました。また、強くかっこいいワニを作った子がいます。爪、牙、目など良く観察していると感心させられます。動物に関する知識はそれぞれですが、人が作っているのを見て「作りたくなった」と動き出したり「教えて」と歩み寄りたりして、仲間のことを認め、新しい出会いが生まれてきています。今、たか1の部屋には 象、チーター、コアラ、オオトカゲ、ペンギン、ヤギ、猫、ハムスター、モルモット、アメニシキヘビ等が静かに休んでいます。「昆虫も作ろう」「カマキリ、クワガタ、カタツムリ、カブト虫……」「ダンゴムシも」「てんとう虫好きだな」。何だかどンドン部屋が狭くなってきました。(教諭・高橋敬子)





研究室から

1日5分のほっこりタイム

福丸由佳

白梅学園大学教授



白梅学園大学に来てあっという間に12年が経ち、幼稚園の前を通ると頬が緩み目が細くなる年頃？になりました。大学では家族心理学や臨床心理学などを担当しています。家族心理学って？と思われる方もおいででしょう。家族は大切な心の拠り所、でもそれだけでもない存在…。そもそもどこ(誰)までが家族？ そのようなことをはじめ色々な角度から家族について考えていきます。

たとえば家族のライフサイクル理論というものがあります。個人に変化・発達の段階があるように、家族にも変化の段階があり、子どものいる家族を想定したライフサイクルでは、大人2人の時期から乳幼児のいる家族の時期(皆さんですね)、児童期、思春期の子育ての時期を経て、やがて子どもの巣立ちの時期、と当然のことながら時間とともに変化します。

これはあくまで理論であり、多様な家族のありようなど今の社会状況を見渡すと色々なことが見えてきます。また、こうした時間軸を意識する中で、子どもとしての経験を振り返りつつ、育ててくれた親の苦勞に労いの思いを抱いたり、大人目線で家族を捉え直したりという学生たちの声に、改めて家族って奥深い存在だと教えられることも少なくありません。

この家族のライフサイクル理論では、次の段階に移行する時は変化への適応が求められるため、大人も含めて家族メンバーそれぞれが揺れやすく葛藤を抱えやすいとも言われます。大人だけの二者関係から子どもを含む三者以上の関係に移行する数年間は、なおさらです。大人2人の時期よりも親になってから喧嘩が増えたと感じる方も多いのではないのでしょうか。

こうした大変な時期の子育てで、私自身になるほど！と、ちょっぴり助けられたプログラムの一部を紹介させていただきます。まず、「よくほめて育てよう」といわれますが、そうは言っても…この時期は特に子どもの良くない行動、できていないことに目が向きがちですよね。でも実は、普通の時、できている姿こそやっぱりチャンスといえるようです。

たとえば、「お友達には優しくしなさい！」というより、ブロックをちょっと分けてあげた時、「おもちゃを分けてあげるの優しいね！」と具体的にほめることで、何が優しいことなのか伝わりやすし、お互い温かい気持ちになれますよね。また、「ちゃんと揃えて靴を脱いだね」と(たまたま?)できた時に、その“行動を言葉にする”ことで、子どもに関心をもって、あなたのこと見ているよ、ということが伝わりやすし、できていない時に注意するよりも、いい行動が増えやすとも言われています。

また、大人からの指示の出し方も、工夫のしようはあるようです。「歩き回らないで！」と否定形というよりも、「ママのとなりに座ってね」と何をしたらいいかを肯定文でわかりやすく伝えた方が、子どもにとってもいうことを聞けるチャンスが増えることもわかっています。さらにこのことをほめられれば、いい循環が生まれやすくなりますね。

これは、CARE (Child-Adult Relationship Enhancement)プログラムの一部ですが、私が何より気に入っているのは、これらを“楽しい遊びの時間”の中で“1日5分”意識しよう（つまりずっとではない！ずっとは私もできません）という点です。子どもとの間に1日5分のあたたかいほっこりタイムを持つ…。何気ないことかもしれませんが、こうした積み重ねは、子どもの中に自分を肯定する気持ちや、あたたかな人間関係をはぐくむ力を育てることにつながるのではないかと、いう気がします。この1日5分のほっこりタイム、コロナ禍で頑張っている私達大人同士も大切にしたいと思うこの頃です。

- 福丸由佳教授は、白梅学園大学子ども学研究所長や子ども学部長として、子ども学の進展に尽力されています。加えて、子育てや家族関係の専門家としてメディアでも活躍されており、NHK Eテレ『すくすく子育て』で時々お見かけします。
- 5月27日(木)にはNHK ラジオの『ラジオ深夜便』の『ママ深夜便』の回に山崎ナオコーラさんと出演され、「1日5分のほっこり声かけ」について話されています。
- 福丸教授の出演回は、7月20日までNHKのWebサイト『読むらじる』から見て聞くことができます（子どもとあたたかい関係をつくる「1日5分のほっこり声かけ」①～④：右のQRコードで①にアクセスできます）。



あそびから

表現力あふれるパフォーマンスは、しばしば「全身で表現する」といわれます。表現しようとする時、身体の奥からこみあげる「描かず(うたわず)にはいられない」衝動が身体を通して表に現れるのでしょう。幼児期に経験させたいのは、この身体感覚と表現とのつながりです。

年少組は、6月に初めてのペインティングを行いました。保育者手作りのボードに立って描きます。このボードは年少児の身長と腕の動きをかながみ、高さや傾きを工夫しています。手にはタンポ。筆は指先でつまむものですが、タンポは手全体で握ります。乳幼児の関節の発達は、まずは肩、次に肘、そして手首へと進んでいきます。タンポを握って平面のボードに向かう

と、自然と肩や肘を支点に腕が動きます。腕を振るには足を踏ん張り身体を支え

なければなりません。その動作こそが「全身で描く」という表現の礎となります。もっとも白梅の年少さんはそれだけでは飽き足らず、絵の具を手につけたり、タンポを絞ったりして、文字通り身体全体で楽しんでいました。（園長・本山方子）





すみれ組

年少



「おそとにいつてきま〜す！」と身支度を終えると、毎日のように園庭に出かけていく子どもたち。自分の思いを出せるようになってきて、「むしをつかまえるの〜」「どろんこしてくる!」「ピクニックにいつてくる!!」と園庭の様々な場所であそんでいます。

雨上がり、「だんごむし、いっぱいとれたよ!」と嬉しそうにバケツの中を見せてくれたり、「ようちゅうはこっちにいる」と一緒にいる子に声をかけたりしています。泥の感触を楽しみながら作った「チョコレート」や「おだんご」。翌日には「かせきだ!」と恐竜好きな子が固くなった泥を丁寧に集めていました。土山を掘って穴に水を入れると、「うみだ!!」と裸足でじゃぶじゃぶ♪。「海」からあふれた水は川のように流れて、再び掘っていくとまた「うみ」ができ、葉っぱを魚に見立て、枝で魚釣りを始める子もいました。繰り返しあそんでいる中で、色々なことに気づいたり、クラスの子との関わりが生まれたりしてくるようになってきました。

すみれ組の前にある花壇。5月の連休前に、子どもたちには知らせずに2種類のトマトの苗を植えてみました。気づく子もいましたが、反応はいまひとつ。しばらくすると黄色い花が咲き、実ができました。「ちっちゃいね」とつぶやいたり、苗に水をあげたりする子もいて、ぐんぐんと成長してきた苗。「こ〜んなにおおきくなるかな?」と手を高く伸ばして表現したり、大きくなってきたトマトを手で触ったり、匂いを嗅いでみたりする子が増えました。もちろん、収穫前に実が取れてしまうハプニングも数回ありました!! いちばん大きくなっていたトマトがなくなった時は「とったひとをさがそう!」と、子どもたちがトマトの絵を手紙に、色々な人に聞き回ったりもしました。

赤くならずにもげてしまった緑色のトマト……「きってみたい!」「ジュースにしたい!」作って匂いを嗅いでみると「くっさい・はっぱ・とまと・りんご」と感じ方はそれぞれでしたが、



「やっぱりみどりのとまとはすっぽくってたべられない。あかくなったらたべられる」と話していました。

身近な自然に触れ、関心を

もったり、五感で感じたりしながら成長を楽しみにしている子どもたちです。

(教諭・佐藤 恵)

